

資源のリユースによる有機農業の取組（土づくりの取組）

- ・生産者名：株式会社安心院オーガニックファーム
- ・設立：2012年10月
- ・住所：大分県宇佐市安心院町目尾945-6
- ・経営面積：14.65ha（ハウス3.45ha 露地11.2ha）全圃場にて有機JAS認証を取得
- ・生産品目：ベビーリーフ、パクチー、リーフレタス、ハーブなど年間約120トンを生産

～取組概要～

- ・地元の酒造メーカーから排出される焼酎かすなどの地域資源を活用して自社にて堆肥を生産
- ・堆肥を圃場に投入し、有機農業を行う資源循環型農業のサイクルを確立

「資源循環型農業」



安心院オーガニックファームHPより

Point

- ◎ 化学肥料の価格が上昇する中、地域資源を活用した肥料づくりは重要な取組
- ◎ 食品残渣を有効活用すれば、ゴミも処理費用も削減
- ◎ 食品残渣など資源は身近にあるので情報を集め、エネルギー向けや肥料向けなど仕分けて利用
- ◎ 地域資源は宝であり、大切にして活かすことで地域の特色ある農業を確立



安心院オーガニックファーム
平子代表取締役社長

- ・原料が安価なことから、経営面でのメリットも
- ・原料の引き取りにかかる労力の軽減が課題

堆肥

1 【土づくり】

- ・有機農業で一番大切なことは土づくり
- ・土づくりには良質な堆肥を安定的に供給する必要があることから、自社で堆肥を製造

2 【堆肥の原料】

- ・宇佐市の三和酒類(株)から排出される焼酎かす「生へこ」が原料のメイン
- ・ほかには市内豆腐店のおからや、牛ふん・鶏ふん、剪定枝や草木、落ち葉などを使用



発酵中の堆肥

（裏面へ続く）

資源のリユースによる有機農業の取組（土づくりの取組）

3 【堆肥の製造工程】

- ・社内にある堆肥製造棟（250㎡）に原料を搬入して重機で混合
- ・月に2～3回切り返しを行い、夏は約90日、冬は約150日で完成
- ・状況に応じて原料の使用割合を若干変更

4 【堆肥の散布】

- ・堆肥は周年で生産し、土壌分析を行いながら、全ての圃場に年に2回散布
- ・植物由来の原料（焼酎かす）がメインなので肥料成分は少ないが、微生物が増え良質な土壌になる



ベビーリーフ

- ・関東の量販店や福岡県、大分県内へ出荷
- ・「美味しさと高品質」によりリピーターを獲得している

～堆肥の原料 焼酎かすについて～

- ・事業者名：三和酒類株式会社
- ・住所：大分県宇佐市大字山本2231-1
- ・創業：1958年
- ・事業内容：麦焼酎、清酒、ワイン、ブランデーなどの製造販売



三和酒類本社工場

- ・麦焼酎「いいちこ」を製造する三和酒類（株）では、年間約70,000トンの焼酎かす（大麦発酵液）が発生
- ・大麦発酵液に含まれる大麦の繊維状の固形分「生へこ」を取り出し、肥料・飼料原料として資源を循環
- ・大麦発酵液を3倍、5倍に加工した濃縮液もあり、同様に肥料や飼料として利用されている
- ・メタン製造施設にてバイオガス化し、大麦発酵液の濃縮時のエネルギー源としても使用
- ・資源循環に加え、脱炭素にも積極的に取り組んでいる



安心院オーガニックファームが製造する堆肥の主原料「生へこ」

ちなみに・・・

「へこ」とは大麦の中心にある黒い筋液化しないため繊維として残存している



(株) 安心院オーガニックファーム
【HP】 <https://ajimu-organic.com/>

三和酒類株式会社
【HP】 <https://www.sanwa-shurui.co.jp/>